

宮崎大学マガジン

【特集】 生成AIって?それ、宮崎県デジタル人財育成コンソーシアムで学べます! ~工学教育研究部 田村教授~

本キャラクタービジュアルは、AI生成技術を活用して制作したオリジナルデザインです。制作後、用途に合わせてデザイン調整・編集を行っています。

Prompt
僕をカッコイイ
ヒーローにして!
海をバックに
超リアルな姿を
生成して!



工学部のAI研究について聞きました
宮崎大学の地域粋入試
教えて!先生!! 教育学部 理科教育・生物講座 西田 伸教授
がんばる宮崎大生!



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
宮崎大学は持続可能な開発目標(SDGs)の達成に資する取り組みを推進しています。



「東京カメラ部 10選 2023」に選出

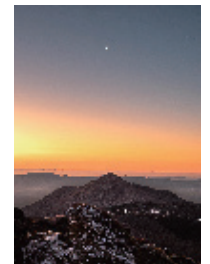


農学部
獣医学科6年
甲斐 塔子さん

野生馬が悠々と草を喰む丘に虹がかかる。串間市の都井岬を切り取った一枚は、日本最大級の審査制写真コミュニティ「東京カメラ部 10 選 2023」に選ばれました。撮影者は農学部獣医学科の甲斐塔子さん。大学入学後に本格的に撮影を始め、3 年目という短期間で手にした快挙でした。



「東京カメラ部 10選 2023」選出



第43回「日本の自然」
写真コンテスト【プリント部門】
「宮崎県一賞」受賞

甲斐さんがカメラに興味を持ったのは故郷・西米良村で過ごした小学生の頃。「父がカメラ好きで、常にカメラがそばにありました。友達の家が遠かったこともあり、家の周りで撮影するのが遊びでした」。一時は写真から離れていたものの、獣医学科の先輩の影響で再び手にすることに。大学 3 年の頃に登山を始めてからは山の写真を撮り始めました。「人の手の入っていないありのままの自然を撮りたいと思うようになりました」と笑顔で話します。

東京カメラ部のイベントでは、写真展やトークショーが開催され、甲斐さんも登壇しました。西米良村や県内の風景 4 点を出品し、「宮崎に行ってみよう」「こんな場所があるんだ」という声が上がったそう。今年の夏は、西都市で行われる県内若手フォトグラファーによるグループ展にも出品します。「交流の機会が増えていくのが楽しみです。私の写真を見て宮崎はいいところだな、県外の方には行ってみたいと思ってもらえたら嬉しいです」

グループ展「まなざし」~A world of crossing gazes.~
8月4日(火)~9日(日) 10:00~16:00 ※9日は15:00まで
会場: まちなかギャラリー夢たまご (西都市)

ミートジャッジメント競技会で初優勝!

2026年2月に行われた「第18回全日本大学対抗ミートジャッジメント競技会」で、宮崎大学が大学対抗部門で初優勝に輝きました。ミートジャッジメント競技会は畜産を学ぶ大学生を対象にした、肉の目利き技術を競う競技会です。牛枝肉部門、豚枝肉部門、部分肉・精肉部門があります。

宮崎大学からは4名の学生が挑戦し、大学対抗部門で1位を獲得!個人総合では阿部さんが3位、松永さんが4位に輝き、2人は7月にオーストラリアで開催された「ICMJ Australia 2026」に、日本代表チームの一員として出場しました。その大会で松永さんは、Commercial Evaluation部門において個人5位という素晴らしい成績を収めました。



農学部畜産草地科学科3年
阿部 はなのさん、境 弥玖さん、松本 七美さん、
松永 彩希さん(左から)

この競技会に参加できるのは、一度だけ。4人は、以前出場を経験した先輩方から指導を受けて競技会に臨んだそうです。「牧場に行ったり、実際の枝肉を見て格付けしたりしました。枝肉を見る機会は十分には取れなかったのですが、以前の大会の写真などをを使って判断するトレーニングを重ねました」(阿部さん)。

初優勝の嬉しさはもちろんのこと、それぞれに大きな学びを得ることができたといいます。「豚の枝肉からより歩留まりのいいものを判断する練習を繰り返しました。トレーニングを活かすことができたと感じます」(阿部さん)「競技会は東京中央卸売市場食肉市場で開催され、流通の現場に近づけたことが嬉しかったです」(松永さん)「食肉産業セミナーもあり、多くの企業の方と交流できました。多くの支えがあって競技会が成り立っていることを知りました」(境さん)「初対面の他大学の学生とグループで行動し、交流できたのがよかったです」(松本さん)。

そして何よりも「仲間と協力して勉強を続け、成長することができた」と話します。「将来の夢に向かう大きな一歩となるはずですよ。後輩にもぜひ挑戦してほしいです!!」

宮崎大学公式フェイスブック
みなさんからのたくさんの「いいね!」をお待ちしております。

宮崎大学公式 Instagram
@miyazakidaigaku
宮崎大学に関する情報を発信します。

Myaoh.TV
公式Youtubeチャンネルで
宮大がわかる動画が800本以上!

宮崎大学広報誌『宮崎大学マガジン』2026 vol.47 [発行日]令和8年7月
https://www.miyazaki-u.ac.jp/
[編集発行]国立大学法人宮崎大学 広報企画室 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 (0985)58-7114

本誌を読んでのご感想などご自由にメールでお寄せ下さい。✉ kouhou@miyazaki-u.ac.jp
*この宮崎大学マガジンは、一般の方々を対象に宮崎県庁や県内の各市町村役場、図書館、道の駅、銀行などで配布しています。
バックナンバーは本学ホームページをご覧ください。



宮崎大学HP



*本誌掲載の記事・写真・イラスト・ロゴ等の無断転載を禁じます。



コンソーシアムではどんなことを学べるの？

車の運転もサポートされてきていますし、文章作成や通訳など、ＡＩで置き換えられるであろう仕事内容はあります。しかし、すべてＡＩにお任せということではないです。ＡＩの特性をうまく生かしつつ、自分の会社オリジナルの部分、有意な点は自分たちで考え、特徴を持たせていかなければ、これからのＡＩ時代の競争には勝てないと私は考えています。ＡＩが得意な分野にはマンパワーを設けずに、人と人とのコミュニケーションを通して、ＡＩにできないデータを収集する。文章化されていない非言語的なもの、例えば雰囲気や表情など、そういったものを含めて目の前で感じ取れるといったことをどう形にしていけるのか、人間はそちらに注力していくことができます。仕事がなくなるのではなく、ＡＩができることを理解し、いいパートナーとしてうまく自分の会社を新たに成長させるタイミングなのです。

コンソーシアムが社会人向けに行っているデジタル

2040年問題という危機に備える

2040年になると、生産年齢人口（15～65歳）が現在より最低でも17%減少するというのが分かっています。1971～74年生まれの「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる年です。全員が仮に県内に留まった場合の数が、17%で、県外に流出したらもつと減少する可能性はある。県内企業は効率化をしていかなければ、素晴らしい技術を持っていたとしても倒産する可能性が高いというのが、みなさんの意識です。県内の産業が衰退すれば当然、税収が減り、人が減り、企業も減りという負のスパイラルに陥ります。

ＡＩが進化すると人間の仕事はなくなってしまう？

ＡＩが進化すると人間の仕事はなくなってしまう？

生成ＡＩの活用が多世代、あらゆるジャンルで日常的に行われるようになってきました。デジタル化はますます進み、使いこなしていくことが必要不可欠なスキルとなっていきます。

宮崎大学や企業、宮崎県は、デジタル化の充実・発展を図り、持続可能な発展及び地域創生に貢献することを目的として、2023年5月、「宮崎県デジタル人財育成コンソーシアム」を設立しました。

コンソーシアムが提供するリスキルプログラムでは生成ＡＩの基本から、会社単位で行うデジタル化、話題の支援ツールなども学ぶことができます。工学教育研究部の田村宏樹教授に詳細を教えてくださいました。

宮崎県デジタル人財育成コンソーシアムとは

宮崎県のデジタル人財育成を推進するため、宮崎大学、旭化成、宮崎銀行、デンサン、イー・アンド・エム、宮崎県で立ち上げたコンソーシアムです。

学生向け、社会人向けの実践的な学習プログラムの展開等を進めています。

いまなぜ、デジタル人財の育成が必要なの？

ほとんどの会社で、何らかの形でデータを蓄積していると思います。数多く集まった売上データや社内のデータ、使い切れていますか？ 売上データがあり、「データ分析をして経営戦略を立ててね」と依頼されたとして、どう分析しますか。分析の方法、データを元にした経営戦略の立て方が分からないという人が多いのではないのでしょうか。

工場でも、現在は多くの部分が機械化され、それと同時にあらゆるデータを取っていると思います。ですがそのデータを使っていますか？ 残しているだけではありませんか？ 記録を取るだけではなく、うまく使えばもつと効率化できるかもしれない、何か経営へのヒントがあるかもしれない。現在の状況の中で経済を活性化させていくためには、まずデータ活用挑戦してみることが重要です。

宮崎の地域経済を活性化させるため、デジタルを活用できる人財を育成していく必要性があると私たちは考えました。県民全員がデジタルを普通に知っている、活用できる。そこから地域経済の底上げを図りたい。まずは企業からデジタル化を進めていきます。

そもそも生成ＡＩって何ですか？

人工知能（ＡＩ）の研究は1940年代からスタートしています。生成ＡＩはそれに応用したものといえます。ではＡＩとは何なのかというと、人間の神経細胞を簡易的に数式モデル化したもの（ニューラルネットワーク）なんです。当時は100個とか1000個の神経細胞のモデルで、シンプルな計算処理や簡単な文字認識ができる程度でした。また、人間の神経細胞は神経細胞同士が情報の伝達をするためにシナプスという構造があります。そのシナプスを介した神経細胞間でのやり取りの強さ（結合係数）が重要で、脳の情報処理能力と関係しており、そのシナプスの結合係数をＡＩではパラメータ（または重み）と呼びます。今や生成ＡＩのモデルによつては、人間の脳のシナプスの数に近いパラメータを持っているモデルもあると考えられます。

また、生成ＡＩが何をしているか簡単に言つと、例えば「むかしむかし」という言葉の後に何を選ぶか。「あるところ」を選ぶのは、過去のデータから「あるところ」が続く割合が多いので、ＡＩのパラメータを変更して選ばれるようになります。正確に言つと、知能があるわけではなく、確率的に次の言葉を自動的に生成しているだけです。何か高度な知能的処理によつて答えを出しているわけではないのです。そのため、対話型生成ＡＩでは誤った結果を生成することもありますので、注意が必要です。「膨大なデータをもとに、候補となるものを生成している」「そんなものだと思う」「こんなことまで回答してくれるのかな？」と試すように使ってみればいいのです。

■デジタル人財育成リスキルプログラム

コース名	対象者
1 Basic Course	宮崎県内に本社または事業所の商業登記がある企業
2 Advanced Course (ワークショップ)	宮崎県内に本社または事業所の商業登記がある企業、リスキリング・DXにより企業の課題解決をしたい意向がある企業
3 Advabced Course (有償)	

■Vibe Coding 基礎編操作研修

・NotebookLM基礎講座(有償)
・Google AI Studio基礎講座(有償)

過去のDX実践コース受講成果を紹介！

ドローンで農業を未来へ継承

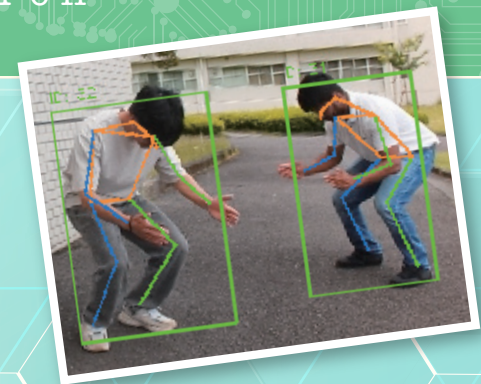
某自治体ではドローンとＡＩによるデータ活用を導入し、人の目に頼っていた圃場管理をドローン撮影とＡＩ解析により可視化しました。学生チームは撮影画像処理・解析を分担し、誤差の少ない面積算出に成功。今後は収穫量予測や施肥最適化などの展開が期待されています。

データとの対話が資産に

某社では、RAG（検索拡張生成ＡＩ）導入プロジェクトに取り組み、NotebookLMとDifyにデータを投入して比較検証しました。学生チームと共にデータと向き合い、データ処理ノウハウと質問設計を組織資産として確立しました。



工学部のAI研究について聞きました



工学部では、AIについてどのようなことを学んでいるのですか？

AIは、私たちの暮らしや産業を大きく変える技術です。工学部では、AIをつくる技術だけでなく、さまざまな分野で活用する方法も学びます。AIはすでに自動車や農業、医療、教育、エンターテインメントなどで新しい価値を生み出しています。人を中心に考え、AIで地域社会をより豊かにし、人々の健康や幸福(Well-being)に貢献できる技術者を育てています。

これまでどのような研究事例がありますか？

工学部のAI研究は、私たちの暮らしや社会のさまざまな場面で役立っています。例えば、牛を一頭ずつ見分けて健康状態を管理したり、出産時期を予測したりするシステム、食品にどのような健康効果があるかを予測・評価するシステム、高齢者が安心して自立した生活を支援する見守りシステムなどがあります。また、医用画像から病気を見つけたり、一人ひとりに適した治療法を提案したりする研究も進められています。さらに、安全な個人認証・情報セキュリティ技術の研究など、幅広い分野でAI研究が行われています。

研究で大切にしていることは何でしょうか？

社会に大きな影響を与える研究こそ、良い研究です。その実現には、小さな成果を積み重ね、一つの物語のようにつなげることが重要です。また、研究の成功にはタイミングも重要です。時代の流れを捉え、アイデアを形にし続けることを大切にしています。先人から受け継いだノウハウを次の世代へ伝えることも研究者の役割です。まずは大学で本当に好きなことを見つけ、その技術を徹底的に磨いてください。

学生のみなさんに、デジタル技術の楽しさに触れてほしい

「第4回みやデジ・アカデミー」参加者募集中！

宮崎県デジタル人材育成コンソーシアムでは、みんなで楽しくデジタルについて学ぶ「みやデジ・アカデミー」を開催します。データサイエンスのコンテンツやインターンシップで、みなさんが今必要としている&興味があるデジタル技術(AI、統計処理、データ分析等)について学ぶことができます。昨年度は、宮交ホールディングス株式会社の協力で半年間のバス乗車データを元に、さまざまなテーマで解析し、今後の経営に向けた提案を行いました。データをどのように扱うか、情報リテラシーやデータ解析について、実践的に学ぶことができます。チーム制のコンペティション形式、コンソーシアムメンバーがサポートするので、初心者でも安心。ご参加、お待ちしております！



第3回みやデジ・アカデミー出場者のポスター

宮崎大学では「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもと、地域社会に貢献できる人材の育成を進めています。大学全体の理念を土台に、教育・医学・工学・獣医の各分野で地域の未来を支える特色ある取組を展開しています。

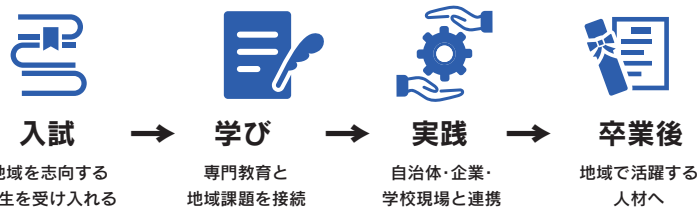
STORY

学部ごとの専門性を生かし、地域の課題に応える

宮崎大学の地域枠入試は、全学共通の一つの制度として一律に運用するのではなく、各分野の地域課題に応じ、地域で必要とされる人材をより柔軟かつ専門的に育成する仕組みとして展開しているところが大きな特長です。

制度に共通しているのは、入試だけで終わらず、入学後の学びや実践、卒業後の地域での活躍までを見通し、大学と地域が一体となって人材を育成している点です。特別なプログラムや地域と連携した実習、インターンシップなど、宮崎のことを深く知る機会も豊富で、同じ思いを持った仲間と出会えることも大きな魅力です。宮崎の教師、医師、技術者、獣医師として地域を支えたいと考える人を宮崎大学は歓迎します。

入試から卒業後までの流れ



Four Pillars

宮崎大学の4つの地域枠入試

教育

地域の学校現場を支える教師を育成
教育学部 宮崎県教員希望枠 総合型選抜・学校推薦型選抜

医学

地域医療を支える医師を育成
医学部医学科 地域枠A・B・C 学校推薦型選抜
※宮崎県医師修学資金制度と連動

工学

地域産業を支える工学人材を育成
工学部 宮崎県就職希望枠 学校推薦型選抜

獣医

畜産・地域産業を支える獣医師を育成
農学部獣医学科 地域枠 学校推薦型選抜
※宮崎県獣医師確保修学資金給付制度と連動

工学部の「宮崎県就職希望枠」で入学した在學生に聞きました

工学部の「宮崎県就職希望枠」では、「工学部地域活躍プラン」による教育・就職支援が受けられます。キャリア教育イベントへの参加を通じて、奨学金返還支援や就職時の一次面接免除(インターンシップ参加者)、奨励金・一時金の支給などの手厚い支援も受けられます。宮崎県就職希望枠で入学した在學生にインタビューしました。

(質問: Q1地域枠を目指したきっかけ・Q2よかったこと・Q3受験生へのメッセージ)

Interview 1



工学部工学科
土木環境プログラム2年

浦島 慎之介さん
(都城農業高校卒業)

Q1 高校卒業後は公務員になり、津波や豪雨災害の対策など防災関係の仕事をしたと考えていましたが、高校の先生から大学で専門的に学ぶ道があると勧められ、進学を決意しました。

Q2 地域枠のメンバーとはすぐに打ち解けました。ともに学ぶ仲間との関係は就職してから連携にもつながるのではないかと思います。また、インターンシップの機会が早くから持てるのも魅力です。

Q3 大学進学という選択肢をこれまで考えてこなかった人も、諦める必要はないと思います。ぜひ挑戦してほしいです。

Interview 2



工学部工学科
土木環境プログラム2年

黒木 祐真さん
(日南学園高校卒業)

Q1 受験に関する情報を収集する中で、文系からでも理系への進学が可能であることを知り、挑戦してみたいと思いました。

Q2 コミュニケーションや多様性について学べる授業があり、企業見学や社会人の講話を通して将来を深く考える機会を持てるのが良かったです。

Q3 地域枠が自分に合った条件かを理解した上で、情報収集をしておくとういいます。頑張れば理系への転向が叶うチャンスでもあります。

詳細はこちら

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/recommen/index.html>



問い合わせ

宮崎大学学び・学生支援機構事務部入試課

TEL.0985-58-7138 Eメール:nyushi-t@miyazaki-u.ac.jp

University of Miyazaki

宮崎大学 TEL(0985)58-7977
宮崎大学学び・学生支援機構 入試課
https://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/opencmps/

2026 Open campus 8/10・11 MON TUE

開始時間は学部により異なります
詳しくはホームページでご確認ください

宮崎大学オープンキャンパス

プログラム

- 模擬講義・模擬実験・模擬実習
- 施設見学 ● 入試概要説明
- 保護者対象説明会・在学生による相談会 など

※入退場は自由です。
※学部・学科によっては、一部のプログラムで事前予約が必要です。

木花キャンパス

- 教育学部
- 工学部
- 農学部
- 地域資源創成学部

清武キャンパス

- 医学部

8/10のみ開催

第7回 宮崎・学生ビジネスプランコンテスト

宮崎県内の大学・短大・高専生（高専生は4年生以上）が対象

10月3日（土） 決勝プレゼンテーション（プレゼンテーション審査）

【場所】メディキット県民文化センター 演劇ホール

宮崎大学 × UMKテレビ宮崎 × 宮崎銀行

観覧無料
決勝プレゼン
観覧について

第6回グランプリ「剪定ロボット開発班」

南国観光地で多く植えられているヤシの剪定に着目した。学生が剪定ロボットを開発し、県内企業と共同で製品化。高所作業車に代わってコスト削減・安全性確保・景観保全を実現する。九州大会でも日本弁理士会九州会長賞と優秀賞を受賞。

BUSI CON! #7

みやざきビジコン事務局
(宮崎大学 創立330記念交流会館 共創人材育成部門)

TEL 0985-58-7141 FAX 0985-58-7974
MAIL busicon@miyazaki-u.ac.jp

宮崎市への「ふるさと納税」で宮崎大学の応援をお願いします

あなたの小さな一歩が、誰かの大きな一歩に

特徴1 教育機関や地域の教育活動プロジェクトを選んで寄附
プロジェクトへの「共感」をモチベーションにしたふるさと納税です

特徴2 宮崎市民も宮崎市にふるさと納税できます
返礼品がないため、宮崎市民も宮崎市に寄附できます！

特徴3 少額で気軽な一歩を踏み出せる
最低1,000円からふるさと納税できます

あなたの支援が、未来を育てます
宮崎大学基金 検索
www.miyazaki-u.ac.jp/kikin

スマホからでも寄附ができます

教育機関と地域の活動に共感し、使い道を選んで寄附できる
教育機関応援型のふるさと納税プラットフォーム

教育機関と地域を応援するSCSKのふるさと納税

お問い合わせ先 宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL.0985-58-7790

Teach Us, Professor!

教えて！先生！！

今年1月、「北海道の海には2タイプのシャチがいる」ことが判明したと報道されました。京都大学や北海道大学などと共に宮崎大学も共同研究に加わっています。宮崎でシャチについてどんな研究をしているの？研究に携わる教育学部の西田伸先生を訪ねました。

教育学部 理科教育・生物講座 西田 伸（にしだ しん）教授

福岡県出身。福岡教育大学教育学部特別教科(理科)教員養成課程生物専攻卒業、九州大学比較社会文化研究科、比較社会文化学府修了。2012年より宮崎大学で教鞭をとり、2024年1月、教授に就任。

シャチは世界中の海に生息しており、利用するエサなどの生態的特徴や遺伝的な違いを総括して「エコタイプ」という複数のグループに分かれると言われている。特に北太平洋東部では「魚を食べる」「哺乳類を食べる」「サメを食べる」エコタイプに分かれる。研究により、北海道の海に來遊するシャチは「魚を食べる」「哺乳類を食べる」エコタイプであることが解明された。

先生の研究について教えてください。

野生生物について、中でも分子系統学、分子生態学、分子集団遺伝学という分野です。DNA解析をして、生物の種や集団の歴史を解明していくという研究です。例えば日本海側と太平洋側で、同じ種でも遺伝的な違いがあるかないか。あったとしたら、どういった経緯で分かれたのかなどを明らかにしていきます。

現在はクジラ目イルカ・クジラやニホンカモシカなどの研究が主です。宮崎県周辺で鯨類が打ち上げられたという一報が入ると、調査やサンプル採取のため現地に駆け付け、調査やサンプルすよ、イルカ・クジラの研究は、大きく分けると野生の生きている個体を観察する研究と、試料が必要な研究に分けられるのですが、私はどちらかというと後者で、打ち上げってしまったストランドイング（生死に関わらず陸に打ち上げられること）：座礁／漂着事例に対応して試料を集め、集団遺伝学的な解析をしています。

宮崎でシャチの研究をされているというのが意外だったのですが、九州沿岸でもシャチは見られるのですか？

2021年には鹿児島でシャチが生存座礁した事例がありました。北海道で2005年に、流氷にトラップされてシャチが集団座礁したことがニュースになったのですが、私はこのトラップされたシャチの解析にも関わっていました。そこで、九州で見られるシャチはどういうタイプなのかということが気になって、ちょうど解析を始めたところでした。他の地域のシャチも国立科学博物館と共同で調査していたところで、京都大学や各地の大学とも共同研究をすることになりました。

DNA解析は、どんなところに面白さを感じますか？

例えばイルカ・クジラも、最近は牛の仲間だというのが比較的広く知られるようになっていす。その決定打になったのは、遺伝子解析からです。以前はクジラのグループと牛のグループが分かれていたと言われていました。今はクジラ偶蹄目という新しいグループとなりました。クジラと牛が同じ仲間とはなかなかイメージできないですけどね。生物の歴史の中では5000万年程度の比較的短い間で急激な水生適応を遂げた仲間です。生物は海から陸に侵入してきましたが、イルカ・クジラは再び陸から海に戻ったと考えられています。そついうことが明らかになる。生物の進化というのがやっぱり好きなんです。

今後の研究について教えてください。

国の特別天然記念物であるニホンカモシカについての研究がスタートしています。文化庁と地方自治体が7年おきに特別調査を行い、個体数や生息環境などを把握します。糞を見つけて個体数を推定するのですが、前回の調査では、ニホンカモシカとほぼ同じ場所に生息するニホンジカの糞とを識別するため、DNA解析を用いたより簡単に早く安価に種判別する方法を開発しました。今回は糞から集団遺伝学的解析も行います。どんなことが明らかになるか、また楽しみです。

Topic 先生の子ども時代、学生時代について教えてください！

幼い頃から動物が好きで、特に鯨類はクジラの絵を描いて母に見せ、種類まで答えさせるような子どもだったそうです。当時、福岡には水族館がなかったので、イルカは旧下関水族館に見に行っていました。下関は捕鯨基地で、隣接してクジラの博物館もあったんです。

将来は高校の理科教諭になりたいと思って大学に進学し、卒論はハマダイコンのDNA解析についてまとめました。教員採用は超氷河期で厳しい状況ということもあり、大学院に進学し、そこで鯨類がやれたらいいなと思っていました。研究室の指導教官は生物考古学/分析科学の研究者でしたが、相談したところ鯨類の研究者とつながてもらうことができました。ただ、鯨類にこだわらず、カブトガニ、プラナリア、メダカ、アメフラシ、トノサマガエル、ヤマビルなどあらゆる生物を扱ってきました。こだわりの過ぎずにとにかく手を動かす。続けてきたことが今につながっていると感じます。